

医療
見えない



病理検査

安全で質の高い医療を実現するためには、その基礎となる正確な診断が必要である。

兵庫医科大学病院の病院病理部では、手術や内視鏡検査などで採取した患者さんの組織・細胞を病理標本にして顕微鏡で観察し、病気について詳しく調べる「病理組織検査」や「細胞診検査」を担っている。

臨床検査技師によって、1000分の数ミリの薄さで切り出された病理標本は、患者さんの手術方針や治療方針を左右する要なのだ。



①



②

① 術中迅速診断

手術中に腫瘍の良・悪性やその切除範囲を確定するため、採取された組織を臨床検査技師が急速に凍結して標本を作り、それを病理医が顕微鏡で観察して診断。この間、約10～15分という短時間である。

② 検鏡

パラフィン（ろう）で固めて薄く切り出した組織標本を、病理医や臨床検査技師が顕微鏡で覗き、腫瘍細胞、異常な部位などをマーキング。最終的には、病理専門医によって診断がなされる。